

人の始 宗

權大教正黑住宗敬題字  
權中教正片岡正占編輯

明治二十一年  
一月廿二日出版

朝陽堂藏版

014574-000-7

特16-492

人の始

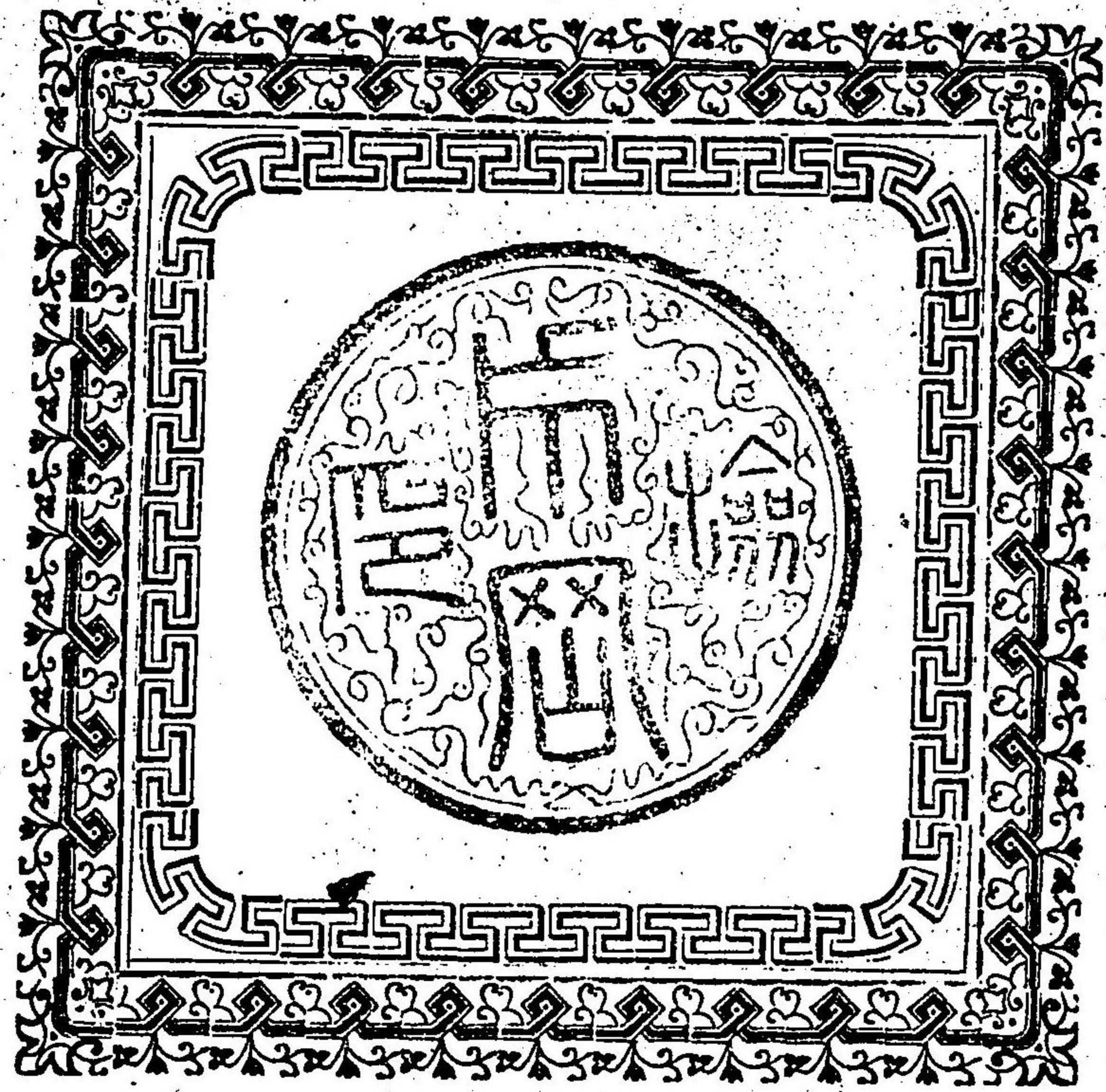
片岡 正占/編

M21

ABB-0989



貨教

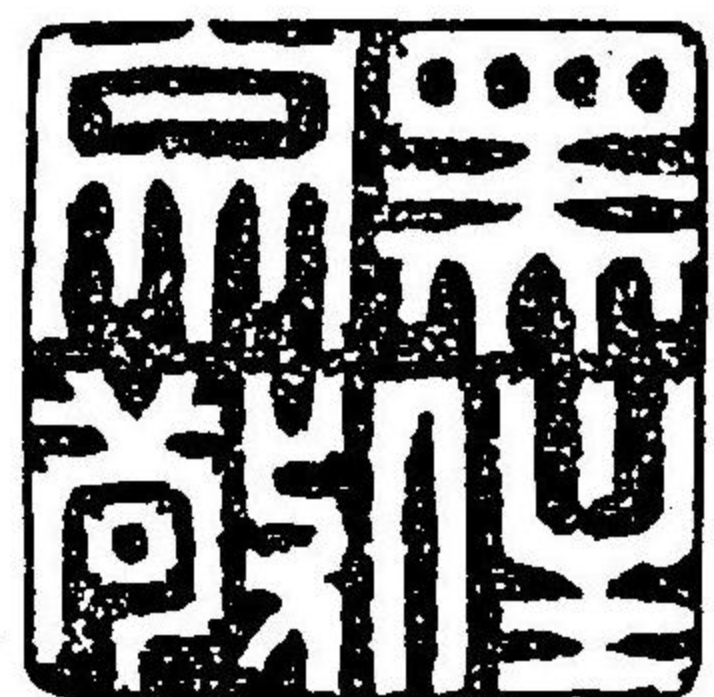




心 字

明池廿五日十二月出沈

一 字



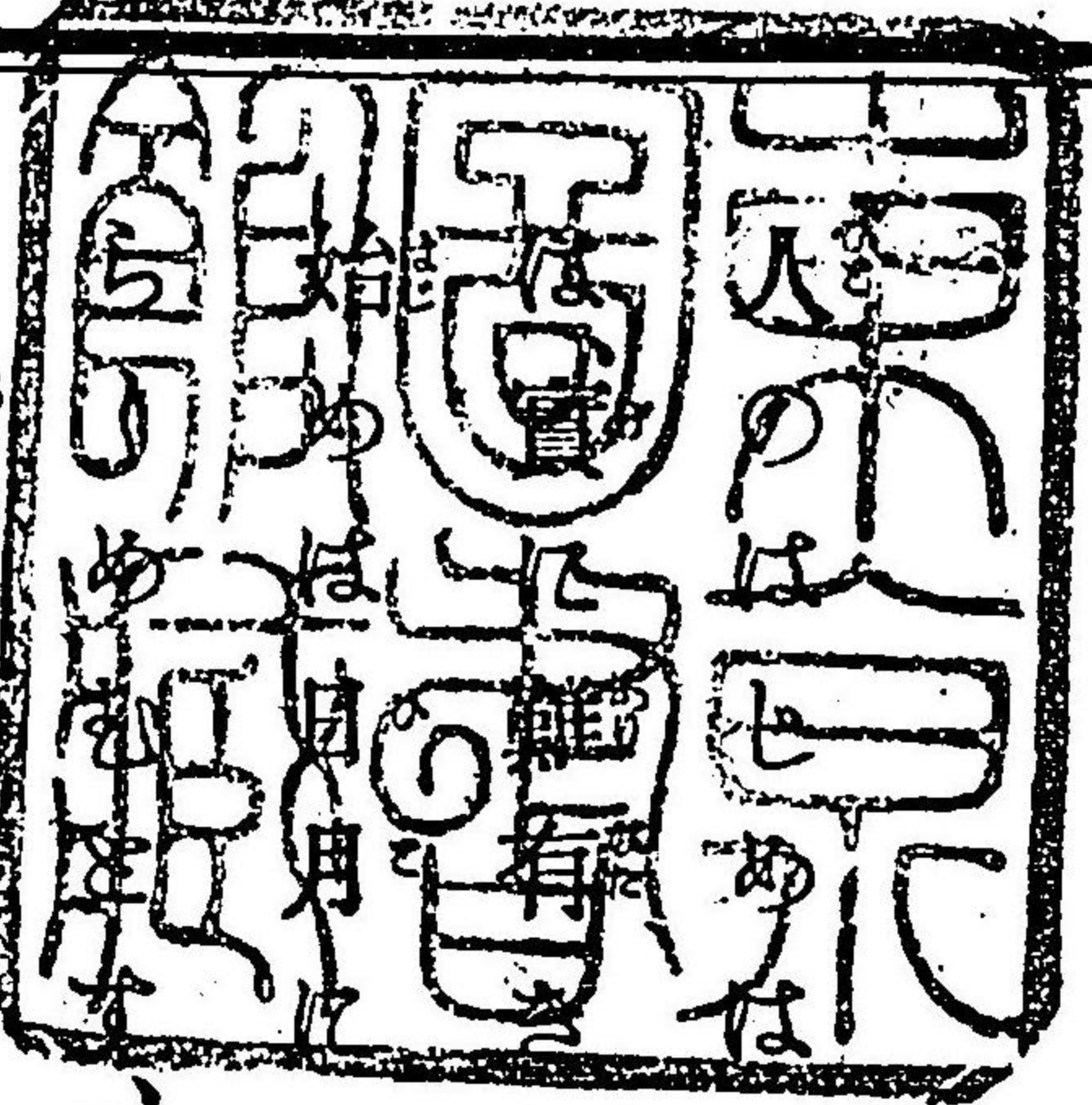
例言

一此一小冊は人たる者母の胎内に宿りて此世  
 界に生れ出る其本を尋ねれば造化神の神徳  
 に依て分娩れ万物の靈長と呼はるゝ所以を  
 記せるなり  
 一此書の文体は童蒙婦女と雖も解り易からし  
 めむか爲に記述たるを以て務めて体格を畧  
 したり請ふ有識の士文章の鄙なるを以て道  
 理を捨ると勿れ

明治二十年十二月

編者識

人の始



日月なりと教祖神の諭志給ひし  
 事ならせや其大意を記して人の  
 坐ます事を普ねく世の人々に知

其御詞に曰く天心の本は日神な  
 り天照大御神八百萬神と申ても本躰は一躰な

り人も其通り幾千萬人ありといへども其基く  
 處は只一人なり、喩へて申さば一本の大木の如  
 く、根は一本なれども枝葉段々に分れてあるは、

權中教正片岡正占編輯

みな八百萬神なり、其大元の根の神は、日神天照大神なり、人と申すも日神なり、世上に顯はれ出たる人も皆々日神の御心に成れば、即ち人なり、折角人と生れても、天心の一ツを研かざれば、人にてはあるまじ、人のひの字は日神の火なり、どは水にまて月なり、日月と分れてあれども、即ち一躰なり、此故に本當の人は日神の神徳を受得たるもの、外になま、其日神の御心と人の心と一心一躰に成るときは、即ち人なり、人は萬物の靈長と申て、天地の間に人の上に立もの一物も

なま」と釋かせ給へり、然れば人は日月と同根同躰の人なれば、其同根同躰の日月と同じ心をもつべきなり、持ざる人は、誠の人とは云ひがたし、又人は日止とも云へり、其は日月の徳に依て生る、故に、其日月の神徳を知りて、心に日を止めよとの意なり、故に誠の心傳にも、心も日月より來り給ふ心なり、又御小傳にも、心はユヅルといふ義にて、日神の御陽氣が凝結て心となるなり、人欲を去り正直に明かなれば、日神と同じ心なり、心は主人なり、形は家來なり、悟れば心が身を

使ひ迷へば身が心を使ふとも示し給へり、され  
ば人は正直を以て心の本躰とす、故に正直にあ  
らざれば、日は止め難き、心に日を止るものは神  
なりとも云へり、俚諺にも心清淨高天原と云ふ  
事あり、然れば、高天原と云ふも一心の外なく、一  
心に日を止むるを以て、神止るとも云へり、され  
ば正直を心に止むるを誠の人とは云ふなり、正  
直の正の字は、一に止ると云ふ意なりと或書に  
見江たり、又正直の正の質は、横に平に志て之を  
水に象り、直の質は、堅に蠱に志て之を火に象る

とも云ふ、是は水火日月の徳を説きたるものな  
り、また○き中に一と云ふ字を○かくの如く書  
きて日の字は製り志ものと云へり、依て按ふに、  
丸き中に○き心をもつ人は限りくられぬ丸き  
中なりとの神詠ある事をも思ふべし、其日神の  
初て出たもふ國なるにより、日本とも神國とも  
云ふなり、日本はいはゆる日神の御本國と云意  
なるにより、七ヶ條にも、第一條に神國の人に生  
れ常に信心なき事と訓誡あるを思ふべし、神國  
の人は日月の生給ふ人なれば、信心のあるが當

然の人なるに信心氣のなきは如何るにやとの  
 御誠めなり、其故に千早ふる神のうみだすうみ  
 の子よ親の心をいたま志むるなどもよみ給ひ  
 まなり、是に依て按ふに親の心を傷めぬ様に爲  
 ざれば、人の道が欠るにより、欠ぬ様に、日月様を  
 乍恐親様と思ひ、萬事日月様にうち任せ、何時迄  
 も子供の心をはなさぬやうに、致志、心を正直に  
 志て、毎朝日拜を怠らざる時は、自ら心が清淨に  
 なりて、我胸中の正直心と、神明の御心と一心一  
 身に成りて、少志も隔なき時は、我心に神が移り

舍利給ふが故に一止るの人、日止るの人とも云  
 はるゝなり、是を以てわが本教には、神の心と人  
 の心と一物なるが故に、神人不二の御教とは申  
 すなり、依て教祖神詠にも、天照す神の御心人心  
 一ツになれば、生通なり又天てらす神と人とは  
 隔なく直に神ぞと思ふうれ志さともよませ給  
 へるなり、されば人は萬物の靈長に志て、鳥畜類  
 とは異なる心を持たざれば、靈長とは云はれ難志、  
 依て其靈長たる所以を説くべきなり、抑人を萬  
 物の靈長と云ふ所以は如何と云ふに、人心清淨

なる時は、天地の神と同根なり、萬物の靈と同体  
なりと云ふ古語あり、天地の神とは、廣く天地萬  
物の神を云ふなり、又是天地の神祇八百萬神に  
して所謂物に依りて遺すべからざるの義なり  
と或書に見たり、是一元の神變じて一切の事  
の神と爲り、萬神亦一神に皈するが故に同根な  
りと云ふ意なり、天地の神は虚にして靈あり、一  
に無形とも云へるが如く、萬物は已に躰あり、  
故に同体なりと云ふ、我心清淨なれば、天に在て  
は神と云ひ、万物に在ては靈と云ひ、人に在ては

心と云ふなり、心は神明、日月の本主と古語に  
有るが如く、故に心は天地の神と同根なれども、  
人は躰を顯はして生るゝ物なるが故に萬物の  
靈と同躰なりと云ふなり、其躰ある萬物の中に  
於て躰ある物の長たるが故に、萬物の靈長とは  
申すなり、又人は万物と一躰なりと云ふ意は如  
何と云ふに、喩へば夏の暑さの頃草木を見るべ  
し、旱魃にて一水もなき時は、草木も雨を臨むが  
如し、人の心にも身躰暑さに耐かねて、水を渴望  
するにて、人も草木も同根同躰なる事を知るべ



きなり、是は天地の偏氣を受るを云ふ、天地の正  
氣を受る時は、草木は雨露の濕ひを受るか故に  
生榮に、人は酷暑を避るが故に氣分爽やかなる  
事生意一般なる事を考へて万物一躰の理を悟  
るべし、されば人も偏氣の穢れを去て天に任せ  
正氣を受けて万物生々すべき善事を施さば、万物  
も其恵を得て天下皆善事に浴するなりと或人  
の説きたるがごとし、是を以て御小傳にも凡天  
地の間に万物生々する其元は皆天照大神なり、  
是万物の親神にて、其御陽氣天地に遍満り一切

萬物光明温暖の中に生々養育せられて息む時  
なま實に難有き事なり各躰中に暖氣のあるは、  
日神より受て具へたる心なり、心はユエルと云  
ふ義にて日神の御陽氣が凝結て心と成るなり、  
又心も日月より來り給ふ心なり形も天地自然  
と生給ふ形なれば無理に捨るにも及ひ不申と  
も諭志給ひ志御教をよく了得て、人のはじ  
めは日月なる事を知りて、日月の誠を取外さぬ  
様に、常に信心の修行怠たりなく、万物の靈長と  
呼れ日月と共に生通志の道に遊び面白く樂志

く生榮ゆるが誠の人と云ふべきにて、誠は人の  
始めなる事をも辨ふべきなり恐くして

正誤

五ノ六行出たもふのもハマ  
十ノ七行傍仮名ノハハハ  
十ノ八行是傍假字これノハハハ  
十ノ十行陽ノウハハハハ  
十ノ十行遍満ノみたハハハ

明治二十年十二月十七日 御届  
全 廿一年一月二十二日 出版

定價三錢五厘

編輯人

片岡正占

廣島縣士族

備前國御野郡東古松村  
五番邸寄留

出版人

栗原釜一郎

岡山縣士族

備前國御野郡上中野村  
十番邸寄留

發賣所

朝陽堂

備前國御野郡上中野村



く生榮ゆるが誠の人と云ふべきにて、誠は人の  
始めなる事をも辨ふべきなり恐くこ

正 誤

五ノ六行出たもふのもハマ  
十ノ七行傍仮名ノハハ  
十ノ八行是傍假字これハ  
十ノ十行陽ノゆうノハヤ  
十ノ十行遍満ノみたハハ

明治二十年十二月十七日 御届  
全 廿一年一月二十二日 出版

定價三錢五厘

編輯人

廣島縣士族

片岡正占

備前國御野郡東古松村  
五番邸寄留

岡山縣士族

出版人

栗原釜一郎

備前國御野郡上中野村  
十番邸寄留

發賣所

朝陽堂

備前國御野郡上中野村

大日本教育會書館

一 册	六 號	一 架	一 三 函
--------	--------	--------	-------------